



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 238

2016/08/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

GREEN COLUMN

01. 雑草とよばれる草

02. クマムシ発見！



今月の一枚



「イソツツジの花畑」

表紙写真・文／城坂結実

6月下旬に、美幌町の子ども達と、弟子屈町にある「つつじヶ原自然探勝路」を歩いてきました。出発地点のアカエゾマツの森を抜けると、イソツツジの大群落が広がり、奥には硫黄山も見渡せる景色のよい場所です。

ちょうどイソツツジが花盛りの季節でしたが、今年は花の数が少ない年だったよう。それでも、イソツツジの不思議な香りに包まれながらの散策には、子どもも大人も大満足でした。

Event. 今月のイベント

特別展「びほろ昔ばなし」 ～10月23日(日)

プチ工房「コマをつくろう」 8月4日(木), 11日(木)

モノ作り講座「特別展記念！手作りカメラを作ろう」 8月10日(水)

夏休み自然教室「だれでもカンタン！トンボしらべ」 8月16日(火)

博物館講座(自然編)「身近な植物で
学んでみよう奥が深い雑草の話」 8月20日(土)

Information. 参加者募集

プチ工房「コマをつくろう」

●8/4(木), 11(木) 10:00-12:00, 14:00-16:00 自由に入室。作品ができたなら終了 ●美幌博物館 1F 講座室

●材料費(100円) ●町田善康(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

夏休み自然教室「だれでもカンタン！トンボしらべ」

8/16(火) 10:00-12:30 ●美幌町内(集合解散は美幌博物館) ●保険料(100円), 野外で活動できる服装, 長靴, 水筒, 虫よけ, お持ちの方は昆虫あみ・かご ●学芸員, 学芸協力員ら ●美幌博物館へ電話申込み(8/2-8/14)。キャンセルは8/14まで。それ以降は保険料100円がかかります。対象はどなたでも。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要, 定員16名で締切。当日雨天の場合は室内学習となります。

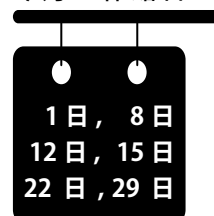
博物館講座(自然編)「身近な植物で
学んでみよう奥が深い雑草の話」

●8/20(土) 10:00-12:00 ●美幌博物館 2F 視聴覚室 ●無料 ●下野嘉子氏(京都大学) ●申込み不要

博物館講座(歴史編)「黒曜石の産地を見に行こう」

●9/10(土) 9:00-16:00 ●遠軽町白滝(集合解散は美幌博物館) ●保険料(100円), 昼食, 飲み物, 歩きやすい服装, 帽子, 雨具, 虫よけ ●松村愉文氏(遠軽町埋蔵文化財センター) ●美幌博物館へ電話申込み(8/2-9/7)。キャンセルは9/7まで。それ以降は保険料100円がかかります。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要, 定員12名で締切。当日雨天の場合は遠軽町埋蔵文化財センター展示室を見学します(入館料300円がかかります)。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

雑草と よばれる草

写真・文／城坂結実



7月～9月にかけて、河原や市街地の空き地で多く見られる雑草、メマツヨイグサ。草丈が50～100cmと高く、上方に淡く光るような黄色の花が目立ちます。近づいて花をよく見ると、花びら1枚1枚がハート型をしているかわいらしい花です。みなさんもお自宅の周りで、見かけたことがあるのではないのでしょうか。

さて、「雑草という草はない」という言葉を耳にすることがあります。植物には必ず名前があり、一つ一つの植物に心を配りましょうと教えてくれるよい言葉です。しかし学問的には、雑草という言葉は存在し、それを示す定義もあるそうです。調べてみると、雑草とは「人間活動で大きく攪乱された土地に自然に発生・生育する植物」や、「作物に直接または間接的な害をもたらす、その生産を減少させる植物」など、人間に関わりの深い場所にある植

物のまとまりを指すようです。

そんな雑草の謎に迫るべく、8月20日（土）に、美幌博物館講座「身近な植物で学んでみよう 奥がふかい雑草の話」を開催します。私たちの生活の変化とともに、繁栄する雑草がどう変わってきたか、また、雑草がいに種子を残してきたのかについて紹介します。普段あまり注目することのない、雑草の生き残り戦略について、講師の方から面白い話が聞けることと思いますので、ぜひご参加ください。

ちなみに、冒頭のメマツヨイグサは、受粉してもらう昆虫を寄せるためでしょう、花からは非常によい香りが漂います。この香りには、人間も引き寄せられるようで…つついつい近寄って匂いを嗅いでしまうのは、私だけでしょうか！？

02 GREEN COLUMN

グリーンコラム

クマムシ 発見！

写真・文／町田善康



カラカラに乾いても、150℃の高温やマイナス 270℃の超低温でも、そして真空や 1000 気圧下でも、さらに放射線を浴びても、ついには宇宙空間に放り出されても、大丈夫。そんな最強の生物がいます。その名は、クマムシ。大きさは 1mm ほどの小さな生物で、身近な場所では、道端のコケの中に暮らしています。写真はオニクマムシ（たぶん）で、左側が頭です。良く見ると小さな目も見えます。

さて、このクマムシを一躍有名にしたのは、その耐久性です。写真のような普通の状態では、耐久性を示しませんが、周囲が乾燥してくると体を縮め、たる樽と呼ばれる休眠状態になります。この状態になると、代謝をほとんど止め、様々な外的刺激に対して絶大な抵抗力をもつようになります。なんと、電子レンジでチンされても生きていたという話もあるほどです。

そんな最強生物に、一度は会ってみたいと思っていたものの、なかなか自分では見つけれませんでした。そんな時、一人の大学生が博物館に来てくれました。話を聞くと、高校生の頃からクマムシのことを調べているらしく、しゃれのつもりで、博物館近くの大きなヒグマのモニュメントの下でクマムシの調査をしようと持ちかけました。半ば無理やり調査をしてもらおうと、驚いたことに、たくさんのクマムシがいることがわかったのです。指先ほどの小さなコケ群落の中に、クマムシが 150 匹。さらに、一種類だけではなく（たぶん）、複数種が一緒に見つかりました。まさにクマムシの楽園が、博物館のすぐ近くにあったのです。乗り気でなかった大学生も、この発見でやる気十分。今後、毎月調査をしてくれることになりました。調査の進展が今から楽しみです。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



昨年、12月に生まれたサケの赤ちゃんが、どんどん大きくなってきました。餌をあげると飛び跳ねて喜ぶので、かわいくて仕方ありません。しかし、水槽で泳ぐサケをみて、お客さんは「おいしそう」と言います。私の大事な息子・娘は食卓にあげませんよ。絶対に！（町田）